

## カンボジアの婚約式

私がこの学校へ着任した4月、教務主任のV先生が今年(数え年で)30才になったので結婚したいと言っていた。先日、おもいがけなく婚約式の招待状を貰った。メコン川の対岸のカンダール州アレイ・クサット村のお嫁さんの実家で夜7時とあった。後でよく読んでみると英語ではpmであったが、その上にカンボジア語でプルーク(朝)と書いてあった。印刷屋がamとpmを間違えたらしい。日本人の常識では夜7時が妥当だが、カンボジアでは結婚式もお葬式も朝の涼しい内に始まる様である。

さて朝7時から始まるとすると何時頃に行ったらいいだろうか?1時間位遅れて行くのが常識かなと見当をつけ、7時半に家を出た。地図で見ると6Km位だがメコン川を渡らなければならない。フェリー乗り場までトゥクトゥク(三輪タクシー)で行き、船に乗り込んだ。料金は20円、バイクや物売りの屋台も乗り込む庶民の足である。プノンペンはビルの林立する大都会だが30分の船旅で、土の細い道にココヤシの木が並ぶカンボジアの田舎に着いた。しばらく歩き村の市場を抜けると婚家があった。8時半に着いたが庭は大勢のお客さんでにぎわい宴たけなわであった。カンボジアの人は時間に正確だ。7時にお供え物を捧げて婚家へ行くパレードがあり、その後朝食の接待が続いているようだ。室内では親族で婚約の儀式が行われているところだった。指輪の交換があり、そのあとの結納金の交換が面白かった。1ドル紙幣(物価の違いを考えると千円札)60枚を盆の上に扇型に並べ、母親から母親へ渡し、それをハンドバックに詰込む儀式。どこの国でも財布のひもは奥さんが握っていることを実感させられる一コマであった。



メコン川のフェリー。自動車は4台まで積める。



村の中の1本道。首都に近いので裕福な家が多い。



村の人は途中で帰るが、招待客はお昼まで居る。



婚約指輪の交換。この後2人はお色直しをした。

## 新学期がはじまる

## プレアコソマ技術学院の学生数 (他に夜間部 300)

11月10日から新学期が始まった。今年の新入生は約1000人、この内500人は奨学生で授業料免除だが、残りの500人は授業料を払った学生だ。公務員の月給が70ドルの国で年間350ドルの授業料はかなりの出費だが、最近の建築ブームと携帯電話ブームで特に土木科と電気科の人気の高い。電子科の学生はもちろん通信会社に就職するが、無線中継局の保守など電気科の求人の方が多いようだ。

	学科	高校	短大	大学	合計
工学系	電気	60	221	327	608
	電子	28	71	140	239
	土木	41	292	467	800
	合計	129	584	934	1647
ビジネス系	経営		60	99	159
	会計		60	139	199
	マーケティング		120	87	207
	合計		240	325	565

## ボランティア活動は人に支えられている

私の仕事はエレクトロニクスの新しい技術を先生方に教え、教育内容のレベルアップを図ることであるが、なかなかチャンスがない。先生方は授業が忙しく、また(給料が安い)他の仕事を掛け持ちしているため、授業が終わるとすぐ帰ってしまう。新しい技術を教えて欲しいとよく言われるが、実際に自分の時間をつぶしてまで習いに来てくれる先生は少ない。以前は、教えた技術の教材を作り、先生方を集め講習会を開いたこともあるが、今回はこちらから強制したくない。ボランティア活動は自分1人でできるものではなく、皆に支えられて初めて成り立つという心境である。したがって、相手から頼まれたことは何でも手伝う便利屋に徹するつもりだ。



教室に入りきらない電気科の1年生。

新学期に入り、K先生から新しく「センサー」の授業を受け持つので手伝ってほしいと頼まれた。インターネットで技術情報を調べ、学校にある機材でデモンストレーション回路を作り、K先生と授業に臨んだ。私にとっては初めての学生との交流であり、携帯で写真を撮る学生の反応など、とても楽しかった。日本ではロボットが学生に人気があるが、カンボジアの学生には単なる玩具としか見えないようだ。もう少し実用的なもの、例えば自動ドアに関心がある。プノンペンではビル建設が盛んだが、私の知る限りでは自動ドアの付いたビルはない。K先生がシステム研究室を新しく作ったので、自動ドアの試作品と一緒に作ろうと今話している。

追記：冒頭のV先生の結婚式に顔を出した後12月20日の夜の便で一時帰国します。健康診断が目的ですが、1ヶ月間東京にいます。